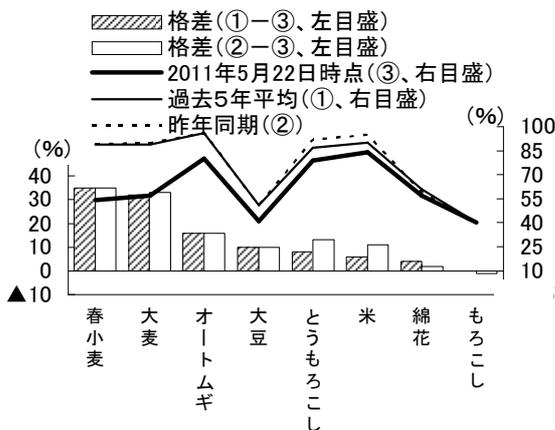


強まる穀物価格上昇圧力

～ ミシシッピ川氾濫と中国の記録的少雨 ～

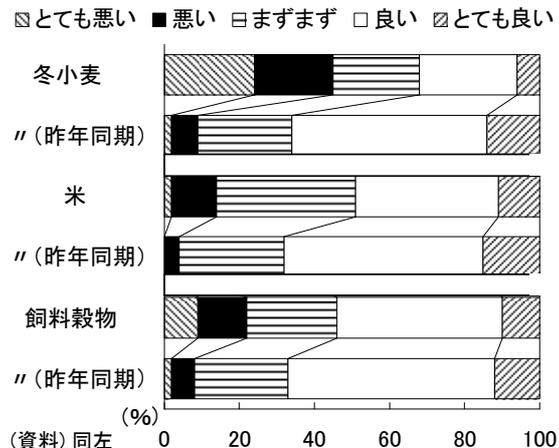
- (1) 5月に入り一次産品価格が下落。しかし、一部の穀物価格は5月半ば以降、再び騰勢へ。とりわけ小麦や大豆、とうもろこしが値上がり。主因は米国ミシシッピ川の氾濫。植付期を迎えた農産品で植付が大幅に遅延(図表1)。とりわけ、春小麦と大麦の遅れが深刻。例年5月下旬には9割方植付が終了。しかし今期は6割弱で3割強の遅れ。オートムギは2割弱、大豆、とうもろこしは1割強の遅れ。加えて、収穫期を迎えた冬小麦の作柄評価が、昨年比大幅に悪化(図表2)。
- (2) 植付の遅延は収穫時期の遅れでなく、収量減に繋がる懸念。世界の小麦生産の1割を占め、主要な穀物輸出国である米国の収量減は穀物需給の逼迫を深刻化させ、価格上昇に作用する可能性大。
- (3) 中国の記録的少雨も持続。10月末が冬小麦の播種期であるなか、小麦生産地の華北エリアでは昨年11月以降早魃(図表3)。世界最大の小麦生産国である中国の早魃は国際的な需給動向を左右。さらに本年入り後、早魃が米の生産地である華南エリアにも拡大(図表4)。揚子江の水運や水力発電に支障。
- (4) チュニジアやエジプトなど、本年初来の北アフリカ・中東情勢流動化の根底には主食とする小麦の値上がりに伴う国民の生活苦。米中の異常気象を起点に北アフリカ・中東情勢の沈静化が阻害され、原油価格を含め一次産品価格が再び上昇に向かう展開が視野。

(図表1) 米国主要農産品植付進捗度



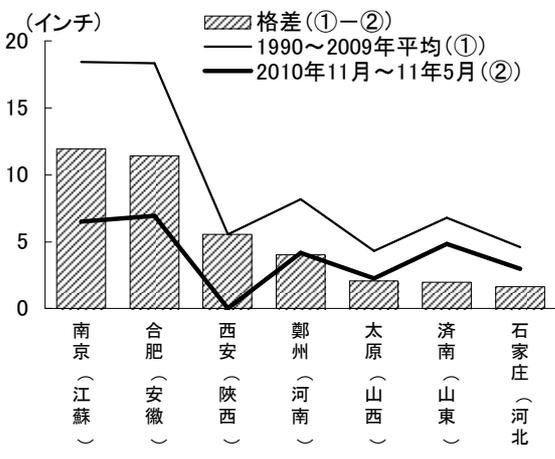
(資料) USDA "Weekly Weather and Crop Bulletin"

(図表2) 米国穀物作柄評価(5月22日現在)



(資料) 同左

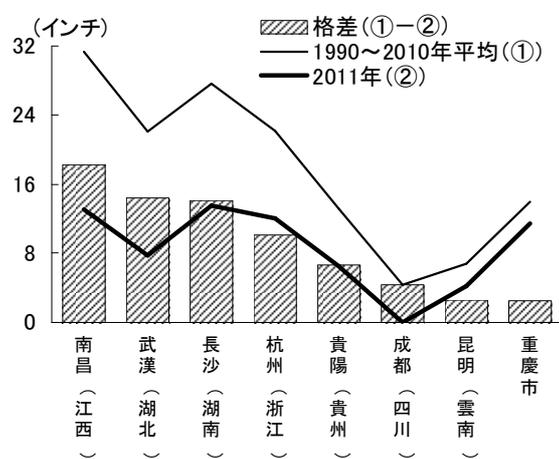
(図表3) 中国主要華北地域の降水量



(出所) US NOAA 調べ

(注) 2011年5月は1~26日値を31日に単純換算。

(図表4) 中国主要華南地域の降水量(1~5月)



(出所) US NOAA 調べ

(注) 2011年5月は1~26日値を31日に単純換算。